

メディア情報学実験 1 「CG」

レポートについての注意事項 (2012 年度)

レポートはテンプレートを利用して Word で作成すること。不注意による減点を回避するためにも、テンプレートに記載されている詳細な注意をよく読み、各自記載内容の充実に努めること。

テンプレートはHP http://www.rm.is.ritsumei.ac.jp/lecture/Jikken1_CG/ があるので、各自でダウンロードして利用すること。

提出期限遅れは、遅刻や欠席と共に、レポート内容の如何に関わらず重大な減点対象となる。

【締切】

- ・ 中間提出締切：3 回目実験終了後、4 回目実験が始まる 2 日前の月曜日
(10/15, 11/19, 1/7) 12:00 まで
- ・ 最終提出締切：5 回目終了後、次の実験テーマが始まる 2 日前の月曜日
(10/29, 12/3, 1/21) 12:00 まで
- ・ 提出場所：プリズムハウス 1 階の「学ひステーション」レポート提出窓口

【レポート内容の充実】

実験レポートは、それを読んだ人が同じ実験を追試できるように書く。そのため、実験環境や実験方法・手順についてきちんと説明する必要がある。また、実験を行った結果と、その結果を元に客観的・論理的に分析して明らかになったこと(考察)を区別し、それぞれきちんと書く必要がある。考察内容は評価を大きく左右するが、主観的な「感想」は考察ではないので混同しないよう、特に注意すること。各課題には、最低限の考察のための示唆が示されているが、各自記載内容の充実に努めること。

【再提出時の注意】

提出物の体裁的不備は再提出の対象とするが、期限内に不備なくレポートを提出する受講生との時間的條件を鑑み、本文内容の差し替えは認めない。記載内容の不足については、原則再提出の対象とせず、そのまま評価する。提出期限延長を意図した故意の提出物不備と判断される場合には、再提出物を期限超過の初提出として取り扱う。

【本文記載についての注意事項】

- レポートのテンプレート(上記 Web サイトよりダウンロード)に従うこと。
- ソースコードは Word 本文に埋め込まないこと (※行間・フォントが大きくなり、ページ数が多くなるため)。別途プリントアウトしたものをまとめてレポート本文の後に添付すること。
- レポートは「です・ます」調でなく、必ず「である」調で記述すること。「感想」についてはこの限りではない。「だ」はマスコミ向け口語表現であって技術文書には不適切である。
- 論理的に記述し、読む側が理解しやすい文章を心がける。
- 誤字脱字・改行・字下げなど、国語で習った文章としての初歩的体裁への注意も怠らないこと。
- 文中「テキストに記載の通りである」などとして省略した場合は、手抜きとして扱う。
- (特に新たに知った)言葉の意味は、しっかり理解してから使用する。
- 可能な限り図を用いて、見やすいレポートの構成を心がける。図の大きさは図の内容がわかる適度な大きさとする。小さ過ぎる、また大き過ぎるものは避けること。
- 表紙を除くページの下部中央にページ番号を入れる(フォーマット設定済)
- 図のキャプションは図の下に、表のキャプションは表の上に記述すること。また、図表番号は図 1、図 2 のように通し番号で付けること。図番の一貫性を保つのは面倒だが、一般的記法に慣れること。

【提出物の確認事項】

- レポートは、左上1箇所に斜めにホチキス止めすること。分厚くて止められない場合は、分割して提出するのではなくダブルクリップを使ってまとめること。
- 以下のデータを図1に示すフォルダ構成でCD-Rにコピーする。
 - ・レポート文書ファイル
 - ・メタセコイア：データ (*.mqo)，レンダリング結果の画像
 - ・OpenGL：各課題のソースコード+myShape.h+Makefile，実行ファイル，結果画像

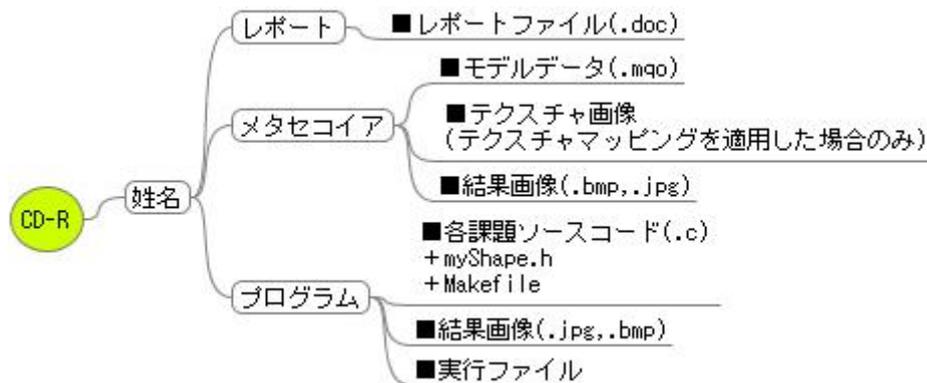


図1 CD-R のフォルダ構成（最上位フォルダ名「姓名」は各自置き換える。■はファイル。）

- 他のパソコンで読めるよう、適切なクローズ処理をすること。（手順はソフトによる）
- CD-R 作成後、その内容が読めるかどうかを必ず確認すること。
- CD-R には学籍番号，氏名を明記すること。
- CD-R は、プラスチックケースではなく、配布した袋に入れ、レポート末尾の所定の位置に貼り付けること。CD-R が袋から抜け落ちてしまわないように、セロテープで袋の口の部分を軽くとめておくこと。

上記の他、追加の注意事項があった場合、別途通知する。

以上

アーカイブ化によるウィンドウズへのファイル転送の方法

本実験でLinux環境下で作成した複数の課題のソースコードなどを、レポート作成などのためにウィンドウズ側へ転送したいときには、全体をまとめて1つのアーカイブファイルとして作成し、これを転送したほうが便利である。

これは以下の方法による。

- ① Terminal で、ファイル（やディレクトリ）の存在するディレクトリの親ディレクトリへ `cd` で移動。
- ② 以下の `tar` コマンドを実行
 `% tar cvf ファイル名.tar ディレクトリ名`
- ③ `tar` ファイルの転送
- ④ Windows 側で、Lhaca を使って `tar` ファイルを展開する。

以上

本実験の課題を Rainbow(BKC)における PC 環境で実行する際の注意

Rainbow 演習室（メディアセンター、プリズムハウスなど）でも、本実験の課題を作成し、実行することができます。水曜日の実験時間以外には、これらの端末を利用してください。

ただし、メディア情報学科実験室における PC と Rainbow 演習室の PC とでは、使っているチップのアーキテクチャが異なるため、実行ファイル（`./kadai3` などのコマンドで起動するもの）には互換性がありません。起動しても、エラーになります。これに対処するためには、それぞれの演習室で、実行ファイルを `make` で作り直す必要があります。

しかし、単に `make kadai3` とコマンド入力しただけでは、その前にソースコードにも実行ファイルにも変更が加えられていないので、新たに `make` する必要がないとの警告が出て、`make` は `fail` します。いったん、該当の実行ファイルを `rm` コマンドで削除してから（たとえば `rm kadai3`）、`make` を実行し、新しくできた実行ファイルを起動してください。

なお、衣笠キャンパスの PC には、Linux は導入されていないので、OpenGL の課題を実行することはできません。

以上

Linux でのグラフィック画面の取り込み方法

- ① Vine の画面左上のアプリケーション メニュー から
「アクセサリ」
「スクリーンショットの取得」
を順に選択してクリック
- ② スクリーンショットの取得で、
「現在のウィンドウ」にチェックを入れる
「取得するまでの待ち時間」を念のため「3 秒」程度に設定しておく
「マウスポインタを含める」のチェックを外す
以上を行った後、
「スクリーンショットの取得」ボタンをクリックし、
実際に取り込みたいウィンドウの上のバーをクリックして、このウィンドウをアクティブ（選択された状態）にする。
- ③ 「スクリーンショットの取得」ボタンをクリックしたあと、指定した時間経過したときにこのアクティブなウィンドウの画面がキャプチャされ、新たに「スクリーンショットの保存」のウィンドウが表示されるので、これに保存するファイル名を付け、「保存するフォルダ」を指定（デスクトップで可）して「保存」ボタンをクリックする。
- ④ 保存した画像をウィンドウズに転送する。
キャプチャし転送したファイルは、PNG (Portable Network Graphics)ファイル形式であるが、このままで直接ワードの文書に挿入することができる。